

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

<b>事業所名</b>	グループホーム 明日香
日付	平成19年3月31日
<b>評価機関名</b>	特定非営利活動法人 ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	ケアセンター介護支援専門員経験5年
<b>自主評価結果を見る</b>	
<b>評価項目の内容を見る</b>	
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	

### 外部評価の結果

<b>講評</b>
全体を通して(特に良いと思われる点など)
「ドン、ドスン」「コト、コト」「ズーン、ズーン…」の音と共に、人影の行き来する姿に、リビングルームを見ると、利用者4～5人の歩行訓練が始まった。早足で歩く男性、杖をついてとぼとぼと歩く男性、ウオーカーで一歩一歩足を進める女性など、それぞれの体調に合わせて、玄関からリビングの奥に続く直線コースを往復している。一日に2回位皆自主的にする習慣のようだ。無表情で前を見つめている人、一寸歩いては休む人、何か助けを求めているような目付きの人、停まりかけた女性の肩を叩いて励ます人など色々である。「もう私はいいです。もう止めて人間やめます。この歳になって…」「こんな所へ来て、何でこんなことせにゃならんの？私はもう帰りたい」「これ以上歩けんようになったら困るのお！」「たいがいけどなあ。皆やっとなで、わしもなあ…」「…」励ましの声かけをした私への返事を聞きながら、利用者の頑張りを見ていた。
「痛い、イタイ、もう止めてください」このセリフを見たら虐待でも受けているかと思うが、職員が血圧を測るために、ジャンパーの裾のしわを伸ばしている時である。目を瞑ったまま車椅子に座っている男性。先程歩行訓練中にもう死にたいと言っていた女性が傍らに来て、「私の半分の歳もきてないくせに何を言うてるんで！情けない。しゃんとせえ。まだこの人若いんでえ」と激をとばしている。昼前になるとこの男性の目が覚めて、大きな眼になると、成る程ごついけれどやさしい顔をして、自分でシェーバーを使って、ひげ剃りを始める。一人の人間が返り咲いた様だ。
食事の時、歩ける人や車椅子で自走出来る人は、自分でお膳を厨房のカウンターまで取りに行く。食事が終わったら下膳する習慣は3年前と同じだった。今日の当番の挨拶で「いただきます」で皆自分の箸で食べた。
「いつまでも、自分で出来ることは自分でする」というのが、このグループホームの姿勢である。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした
最近の管理者や職員の退職が多いので、何を改善するにしても、サービス提供の質の向上をさせるにしても、まずは職員が安定する事であろう。資格にとらわれず、認知症を理解できる人柄で定着できる人材確保を是非進めてもらいたい。

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>「グループホームのケアは「一人ひとりの思いや気持ちを大切に少しだけでも実現してあげたい」「認知症になった原因が全部違う。病気を考えた対応をしてあげたい」「それぞれに歩んで来た人生が違う。考え方も異なる。そでに添えるためには？」だから個別対応が必要なんです。皆のどこを支援させてあげれば喜ばれるのか、だから個別ケアが大切なんです。でも難しいですよ」と管理者は言う。全く同感である。</p> <p>認知症ケアの基本は、「人間が人間をケアする。」ことであり、ケアをする人の資質が問われる。だけど、利用者の安心出来る生活を保障するサービス提供の礎は、綿密に組み立てられた職員の具体的な業務内容であることも忘れてはならない。</p>		

### 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>玄関を入ると真直ぐに伸びた廊下があり、片方にリビングルームと厨房がある。そこから殆どどの居室が見渡せる。リビングルームには食卓とソファがあり、タミ敷きの台が座ってもよし、洗濯物の置台にもなる。リビングの壁には利用者の塗った絵や皆で作った雑祭の貼り絵、催しの写真等貼ってあり、生活ぶりが分かる。</p> <p>リビングルームに面してウッドデッキがあり、季節が良くなれば、そこで外の空気を吸いながら田園風景を眺められる。デイサービスの施設が隣接されており、交流も出来る。</p> <p>居室には、トイレと洗面台が設備され、室内で生活が出来、安心である。</p>		

### ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>ケアの質の「向上」以前に「安定」が必要である。このホームも、設立以来3年間の様子を見ると、要介護度で見ると行動上から重度化しているなど感じる。身体機能維持には、常に歩行訓練や自分の出来ることは自分でする習慣で足腰のリハビリや便秘防止などに役立てようとしているが、精神状態の安定と併せるともっとバランスの取れた生活をしていかねばならないと思う。その為には安定した職員の確保が必要だろう。今年度も管理者と職員が多数退職しており、管理者は「介護計画や記録もしたいことはたくさんあるが、職員が変わると職員に理解してもらうまでに時間がかかるので、中々出来ないんです」と言う。全く同感であり、今何をしてもらいたいという状態ではなさそうだ。</p> <p>19歳の若い人が、高齢者の介護をしたいとこのホームで頑張っている。これから期待できる人であるが、やはり安定した職員の中で育ててもらいたいと思う。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	<p>地域密着型サービス提供をしていくグループホームとしては、利用者一家族一地域に対する関わりが重要になってくる。それを実現するには、先ずホームの理念をはっきりさせ、代表者と職員がホームの理念を理解し共有して、周りの人々に啓発し、家族や地域の人々と共に、その地域の中でグループホームをしっかりと根付かせることが必要であり、そこで生活する利用者の幸せとなるだろう。</p> <p>これを実現する為には、代表者と職員が連帯していくことが必要である。職員の確保は難しい環境下ではあるが、代表者をはじめ管理者で是非安定したグループホームを作り上げて欲しい。</p>		